

# 2030年に向けたアジェンダの再考

レジリエンス、成長、サステナビリティの実現に向けた道筋を解き明かす



国連グローバル・コンパクト (UNGC) とアクセンチュアが共同で実施した、サステナビリティに関する過去最大規模のCEOグローバル調査

**2,600**  
名以上のCEO

**128**  
カ国

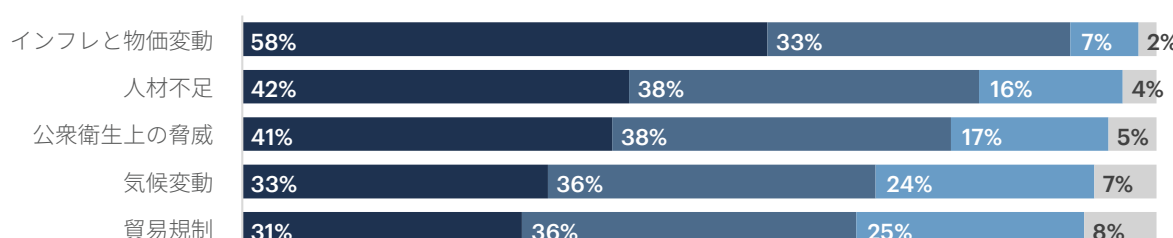
**18**  
業種

## 世界的な混乱の中、長期的なレジリエンスを構築するためにサステナビリティを事業全体に取り込む

### 警鐘を鳴らすCEO

企業はかつてないほどの大きな課題に直面しています

**93%** さまざまな課題が山積する中で、上位に挙げられた課題は以下の通りです。



アンケート項目：企業と社会が直面しているさまざまな問題は、現在ビジネスにどの程度の影響を及ぼしているか

■ 影響度：大 ■ 影響度：中 ■ 影響度：小 ■ 影響なし

### 時間は迫ってきています

2030年のSDGS達成に向けて我々に残された時間はわずか8年です。

**87%** 世界規模で混乱が続く中、SDGSの達成は難しいと回答したCEOの割合

**51%** コミットメントと行動を強化することで、自社が重要な役割を果たすことができると考えているCEOの割合

**98%** サステナビリティを自らの役割の中核と捉えているCEOの割合



## SDG達成に向けていかに前進するか

### CEOはSDGS達成に向けた行動に着手

環境、社会、企業が直面するさまざまな問題がもたらす影響を回避するために、サステナビリティを事業全体に取り込み、レジリエンスを構築しなければなりません。

**63%**

サステナビリティのための新たな製品やサービスを投入

**55%**

バリューチェーン全体でサステナビリティに関するデータ収集の強化

**49%**

再生可能エネルギーへの投資

## レジリエンスに不可欠な要素

レジリエンス構築に向けて、CEOは戦略、人材、サプライチェーン、広範なエコシステムなど、事業全体をカバーした取り組みを遂行する必要がある



企業のレジリエンスを高め、2030年までにSDGSを達成しましょう。国連グローバル・コンパクト (UNGC) とアクセンチュアが実施した「サステナビリティに関するCEO調査」の詳細は下記よりご覧ください。

<https://www.accenture.com/jp-ja/insights/sustainability/ungc>